

## ▲▽組合活動レポート▽▲

### ◆海上で働く船員の生命を守る無線医療助言事業を継続する活動②

組合本部 総合政策部 部長 遠藤 飾

#### ■船舶から傷病人の様子を伝える

通信手段としての電子メールは、写真画像を添付しての助言要請が可能という大きなメリットを有していることもあり、近年急速に重要性を増しています。しかし、一方向性、随時性の要素が強いため、緊急時には、双方向性であり即時の応答が期待できる電話による通信への信頼性が高まります。両者の特徴の違いを踏まえた上での適確な使い分けが今後もなされていますので、通信技術の発展とともに、今後は、画像の利用に加え双方向性、即時性も期待できるスカイプなどを利用したテレビ電話の導入が待たれます。

#### ■助言要請の特徴と傾向

助言要請の内容ですが、急性胃腸炎、急性虫垂炎、消化性潰瘍などの消化器疾患や外傷に対する助言要請が例年最も高くなっています。傾向としては、電子メールで画像を送付することにより、正確な診断と投薬などの指示が行いやすい皮膚科疾患が増加しています。また、長期間外洋に出る船員の健診や生活指導も重要です。そしてAEDを使用する場面も増えると思いますので、万一に備えその操作法を確認しておくことは大切です。

近年の特徴として、日本人船員の年齢構成の高齢化、フィリピン人を中心とした外国人船員の増加傾向に伴い、外国人船員の場合、比較的年齢が若いこともあり、外傷、ストレスに由来する消化器疾患が多くなっています。

#### ■今後の課題と取り組み

画像送信が可能で手軽な電子メールのメリットは大きく、さらには受け手側には情報を吟味し、返信を整理する時間的余裕があるため、受け手に優しい通信手段といえます。しかし反面、緊急事態に直面している海洋上の送り手にとっては、情報の即時性がなく、いつ返信がなされるかわからないという不安もあり、必ずしも望ましい通信手段とは言えません。その点から無線医療通信の場面ではいまだ電話の果たす役割は大きいと言えます。

現在、地上においては、スカイプなどを利用することにより、海外とも無料でテレビ電話交信を行うことが可能です。このテレビ電話こそは、電話の双方向性、即時性と電子メールによる画像送信という両者の長所を兼ね備えたものであり、通信インフラの整備とともに、無線医療の現場にテレビ電話が導入されるよう、総合政策部では、この無線医療助言事業の安定的かつ円滑な運営が継続されるよう注視していくとともに、総務省や国土交通省をはじめとする関係省庁による衛星通信サービスの高度化や海上ブロードバンドの普及に向けた取り組みの促進など、情報通信インフラの整備促進に取り組んでいきます。